

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人信州大学

1 全体評価

信州大学は、山々に囲まれた自然環境及び信州の歴史・文化・伝統を大切に、総合大学として世界に通じる教育・研究を行い、自ら創造できる人材の育成、独創的研究の学際的推進、地域・社会の発展に貢献することを目指している。第3期中期目標期間においては、先鋭領域融合研究群を中心に世界的な教育研究を行い、多分野にわたる全国的な教育研究拠点としての活動を行うとともに、地域に分散するキャンパスの強みを生かし、地域活性化の中核拠点となること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、次代クラスター研究センターを発足させ研究実施体制を強化するとともに、長野県内におけるがん診療連携体制の機能強化を図るなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- カーボン科学研究所においてインパクトファクター5以上の学術雑誌に30本の論文を発表しナノカーボンに関する世界トップの研究教育拠点の形成を促進しているほか、バイオメディカル研究所においてiPS細胞を用いた新しい心臓病治療法研究を実施し世界的な学術雑誌への掲載が実現するなど、先鋭領域融合研究群の研究活動を進展させている。（ユニット「先鋭研究領域の融合と頭脳循環による世界水準の国際教育研究拠点の形成」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 経営人材の育成に向けた計画の策定

教育・研究・産学地域連携面での質の高い教員の育成と併せて、地方総合大学として経営力・政策企画力を持つ教員、経営マインドを有する教員の育成は管理運営上の急務と捉え、大学の目標やミッション等において求められる教員像と教員人材育成施策を示す「信州大学教員人材育成プラン」を策定している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 金額の決定方法等の見直しによる間接経費の増

共同研究の間接経費を直接経費の10%に相当する額以上に設定することができるよう関係規程を改正するとともに、一定額以上の大型共同研究についてURAが契約当初から関与し、直接経費・間接経費を一律に設定するのではなく、算出根拠に基づき企業等と協議をした上で設定することとするなど、間接経費の増額に向けた取組を実施した結果、共同研究・受託研究・受託事業にかかる間接経費の額が平成27年度に比べて約7,525万円多い約3億8,141万円となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載14事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成27年度評価及び第2期中期目標期間評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 次代クラスター研究センターの発足を通じた研究実施体制の強化

学内における競争的環境を確保するとともに、時代の要請を捉えたプロジェクト指向の教育研究を持続的に展開していく体制を整えるため、若手教員で構成される研究グループを学内公募し、5つの研究センター（菌類・微生物ダイナミズム創発研究センター、航空宇宙システム研究センター、次世代医療研究センター、社会基盤研究センター、食農産業イノベーション研究センター）から成る「信州大学次代クラスター研究センター」を発足させている。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 退院指導及び在宅療養支援の充実に向けた人材養成の推進

がん患者や難病患者等に対する切れ目ない医療提供と地域在宅ケアの促進を目的として看護師を対象に実施した「実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業」では、第3期中期計画の目標値として設定した20名を上回る51名の第1期生に修了証書を授与するとともに、当該事業の第2期生を平成29年1月から募集して52名の受入れを決定するなど、退院指導及び在宅療養支援の充実に向けた人材養成を推進している。

○ 長野県内における院内助産の普及促進に向けた人材養成

地域の分娩施設減少や産科医不足の問題に対応するため、「信州大学院内助産リーダー養成コース」を開講し、県内の医療機関の助産師を含む受講生を受け入れ、平成29年3月に第1期生4名を輩出するなど、長野県内における院内助産の普及促進に向けて、主導的に活躍できる助産師の育成に取り組んでいる。

（診療面）

○ 長野県内におけるがん診療連携体制の機能強化に向けた取組の実施

長野県がん相談員スキルアップ研修や緩和ケアセミナー、多職種連携研修会等、がんに関わる県内の医療従事者を対象とした研修会等を13回実施し、927名が参加するなど、都道府県がん診療連携拠点病院として、長野県内のがん診療連携体制の機能強化を図っている。

（運営面）

○ 非常勤職員の常勤化による優秀な人材確保と安定した医療提供体制の構築

非常勤のメディカルスタッフが労働条件を理由に離職するといった人材確保上の課題を踏まえ、医療の質を担保・維持するため、経営状況を鑑みつつ、中長期的に常勤化100%を目指すことを基本方針とする「メディカルスタッフ等の常勤化基本方針」を策定し、リハビリテーション部4名、薬剤部5名、臨床検査部2名等、合計19名の常勤化を実施し、安定した医療提供体制の構築に向けて、優秀な人材確保に取り組んでいる。